

2006 くすのき

VOL. 17

樟樹

樟樹会 新在洪西島牙学校同窓会

校内こんなところ(こと)ご存じですか？

第

7

回

機械警備

今年4月より、守衛による宿直警備が廃止され、機械警備が開始されました。

各教室や教棟には、3月中旬から工事が行われ、センサーが設置されました。これにより、下校後や休日などの無人化した校内の警備は、すべて警備会社に委ねられました。

機械警備化に伴い、早朝の欠席連絡や休校日の連絡はFAXが用いられるなどの変更が生じています。誤操作を恐れ、とまどいを見せていた教職員も、失敗を繰り返しながら(？)ようやく要领を得てきた様子です。



家庭科

～歴史に終止符～



旧家庭科校舎(昭和34年頃)

今年度より、本校家庭科の募集が停止されました。

昭和31年4月1日に開設された全日制家庭科は、平成17年度入学生(現2年生)の卒業をもって、その歴史に幕を下ろすこととなります。

情報産業の林立や、総合学科の設立など、さまざまな時代の変化に伴う措置であると考えられますが、5,500余名の卒業生を始めとする本校関係者にとっては寂しい決定となりました。

―自立と共生、創造力の育成―の教育目標のもと、食物・被服の技術検定合格を目指し、実技や知識の習得に取り組み、2、3年生らにエールを送り、有終の美に期待したいものです。

さくらんぼが！

在校生のみなさんにご存知でしょうか？「樟樹」11号で紹介した記念会館前のカナリヤシに着生(カナリヤシから養分を取っていませんので寄生ではありません)が「寄生」と表現したほうが分かりやすいと思います)している桜に今年初めてさくらんぼが生りました。



筆者として食してみると、少年の頃野山でいろんな実を取って食べた、あの甘酸っぱい味でお世辞にも「美味しかった」とは報告できません。



会長あいさつ

創立90周年記念事業・会員名簿の発行



樟樹会会長 畑田 雅敏 (昭和44年卒)

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動にご賛同ご協力戴き誠に有難うございます。

さて、愛媛県立新居浜西高等学校は、大正6年5月3日、新居浜実科女学校として開校して以来、平成19年5月3日をもって創立90周年を迎えることになりました。

この間、時代の流れにより幾多の変遷を経て、昭和24年9月愛媛県立新居浜西高等学校となり、今日に至りました。母校は、大正・昭和・平成の三代にわたり、愛媛県における教育の向上に多大の貢献をし、戦後の学制改革後はその輝かしい歴史と伝統をさらに発展させてまいりました。現在では運動部・文化部の華々しい活躍と進学における全国屈指の優秀校として知られておりますことは、誠に喜ばしい状況であります。また、この素晴らしい自由と活力にあふれた母校に学び、育つていった卒業生は30,000人を超

え、国内はもとより広く海外にも雄飛し、各界で活躍いたしております。

幸い、県並びに県教育委員会のご高配と同窓会会員・PTA各位・地域有志の絶大なご協力・ご支援により、現在のように素晴らしい教育環境が整備されて参りましたことはご同慶の至りであります。

母校創立90周年を迎えるにあたり、90周年を記念するに相応しい事業・行事をといた同窓生各位の声がだんだんと大きくなってまいりました。その声を結実させるため、昨年より記念事業について検討を重ねてまいりました。その結果、各種の記念事業・行事(国旗・校旗掲揚台の設置・記念誌刊行・記念式典)並びに会員名簿の発行を計画いたしました。

個人情報保護法施行以来、見合わせていた名簿の発行は、保護法に則り、それぞれの会員個々の意志を反映しながら作成するよう、昨年の理事会で決定し、作業を進めております。業

者サラトが、同窓会が指定する名簿業者でありますので、サラトから送付される内容を十分ご確認の上、会員個々の責任でご回答戴ければ、名簿の掲載可否並びに変更も出来るように致してございますので、何とぞ趣旨をご理解くださいまして、絶大なご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、待望の2006年樟樹会総会・懇親会は、8月5日土曜日(リーガロイヤルホテル新居浜)で開催致します。昨年同様OB・OGの方々の多数のご参加をお待ちしております。そして、お元気なお顔をお見せ戴き、来年に行います90周年記念事業などの話題に花を咲かせて戴ければ、同窓会としてこの上ない喜びでございます。

本年もこれまで以上のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。同窓会会長としての挨拶とさせていただきます。



同窓生紹介

「新居浜との不思議な縁」



Profile

河村 徹 (かわむら とおる)

- 昭和41年 愛媛県立新居浜西高等学校卒
昭和45年 青山学院大学卒業(法学部私法学科)
文学部ラテン語専修課程
昭和48年 日本交通公社(現 JTB)入社
事業開発(観光事業、ホテル事業、
リゾート事業等々)、社有不動産
開発、海外旅行に携わる
昭和63年 アサヒビール入社
事業開発(社有不動産開発、新
規事業企画開発等々)、不動産
開発、国際事業開発(海外資産
M&A等々)、工場見学企画運営
管理、市場開発に携わる
平成18年 新居浜市に出向

鉱山の観光再開に没頭して
いた時の事。プロジェクトの
直属の上司が北海道歌志内出
身(即ち三井歌志内炭鉱、愚妻
が新潟県佐渡出身(三菱佐渡金
山)、私が新居浜出身(住友別子
銅山)と言うことで、自分の周
囲は三井三菱住友の鉱山がら
み!!と不思議な縁を感じた。

事実、鉱山のマイナランド尾
去沢への観光商品化には別子
関係の所有資料が役に立ち、その後
の鉱山観光開発の第一事例となる成
功への礎ともなった。また尾去沢鉱
山の社宅群や生協などが新居浜のそ
れに酷似している事も驚きであっ
た。

再び故郷とドンドン近くなって
くのは、縁があつてビール会社に転
じる前後からマイナランド尾去沢の
開業そして営業化が軌道に乗った
頃。新居浜市からマイナランド尾去
沢の成功を受けて、別子銅山跡地観
光再開の打診があり、基本計画策
定に参画。残念ながら途中海外旅行
部門に異動したため実施計画には参
加していないが、マイナランド別子
が全国屈指の観光鉱山となっている
ことは本當にうれしいことである。

アサヒビール本社不動産開発課
長として工場進出も担当していた
頃、西条市と住友化学から造成地へ
の工場進出打診があり、早速現地実

査。住友化学幹部が当該地視察後西
条・新居浜を案内してくれ(こが、
新居浜西高です。ここが千寿亭と言
いまして...)と説明される度、又々
不思議な感じがフワ〜と私を包ん
だ。その後工場進出も紆余曲折を辿
り、私も国際事業開発課長に転じ、
忘れていた頃、突然に「西条に工場
建設決定」と急報が流れた。これを
聞き「仕事に関係したいな」と思っ
ていたなら、1年後に全国の工場見学
の統括責任者に任じられ、平成8年
6月の工場竣工とリーガロイヤルホ
テル等と連携した見学客誘致に、本
社より西条にいる時間が長くなる程
打ち込んだ。四国工場竣工後、市場
開発本部に移り、故郷とは関係が密
になって行く。産業観光について考
える異業種交流会、幻の郷土料理の
復活、宇高太鼓台韓国遠征への協賛
等々、本拠は新居浜か?とからかわ
れる程の密着ぶりであった。そこに
来て今般の新居浜市出向である。所
管に何十年前に関係したマイナント
ピア別子がドツシリと座を占めてい
る。私はこれを運命の不思議と思う。
私のご先祖様は余程新居浜に帰らせ
たかったのかとつくづく思う。

いずれにしても生をうけ育った新
居浜と感性の礎を育んでくれた母校
新居浜西高に感謝し、これからもず
つと密に交わって行きたいものであ
る。また地域の経済振興に十二分に

本年4月1日付で新居浜市経済部
長に就任した。全国でも例のない民
間(アサヒビール)からの出向による
就任である。周囲は一樣に驚いてい
るが、一番びっくりしているのは当
の本人である。昨夏、市より打診が
あつた時「本當にこんなことが可能
か?」と思つたし、「やはり現実と
なつたんだ」とやっと実感したのは
就任後1ヶ月たった5月の臨時議会
に出席した時である。

放送。西高がその当時イメージして
いたアメリカのハイスクールとタブ
リ、先輩方が凄く大人に見えるまぶし
く思えたものである。今でもまだこ
の素晴らしい放送はやつていなか
な。図書館も私にはとても充実して
いた。高校生レベル以上の蔵書が多
く、東洋文学大全の正訳アラビアン
ナイトや水滸伝、世界地理文化大系
などはそれぞれ私が独占して読ん
たものである。

西高生の例に洩れず、特に野心も
深い考えもなく進学し、夏・冬休み
には帰らずとも新居浜祭には必ず帰
省、故郷と縁をつないでいたが、大
学を卒業し社会人となつてからはそ
れも段々と疎になつていった。東京
に居を定め国内海外で主に観光調査
や開発を進める仕事。故郷を忘れる
ことは無かつたが、空白の時間を埋
めるように強烈に蘇つたのが、日本
三大銅山のひとつ秋田県三菱尾去沢

新居浜西高を卒業したのは、昭和
41年。ピートルズが来日した年であ
る。入学は、昭和38年。入学して最
も強烈で新鮮に感じたのは、昼休み
に「西高放送クラブのリクエストタ
イム」と言うナレーションが始まる
「ヒット曲紹介であつた。先ず「悲し
き雨音」がダンストップ1位でいくら聞
いても飽きず、今でも歌詞を空んじ
ている。中学生から西高生に、そし
てアカ抜けたPOPSのリクエスト

新居浜西高を卒業したのは、昭和
41年。ピートルズが来日した年であ
る。入学は、昭和38年。入学して最
も強烈で新鮮に感じたのは、昼休み
に「西高放送クラブのリクエストタ
イム」と言うナレーションが始まる
「ヒット曲紹介であつた。先ず「悲し
き雨音」がダンストップ1位でいくら聞
いても飽きず、今でも歌詞を空んじ
ている。中学生から西高生に、そし
てアカ抜けたPOPSのリクエスト

新居浜西高を卒業したのは、昭和
41年。ピートルズが来日した年であ
る。入学は、昭和38年。入学して最
も強烈で新鮮に感じたのは、昼休み
に「西高放送クラブのリクエストタ
イム」と言うナレーションが始まる
「ヒット曲紹介であつた。先ず「悲し
き雨音」がダンストップ1位でいくら聞
いても飽きず、今でも歌詞を空んじ
ている。中学生から西高生に、そし
てアカ抜けたPOPSのリクエスト

新居浜西高を卒業したのは、昭和
41年。ピートルズが来日した年であ
る。入学は、昭和38年。入学して最
も強烈で新鮮に感じたのは、昼休み
に「西高放送クラブのリクエストタ
イム」と言うナレーションが始まる
「ヒット曲紹介であつた。先ず「悲し
き雨音」がダンストップ1位でいくら聞
いても飽きず、今でも歌詞を空んじ
ている。中学生から西高生に、そし
てアカ抜けたPOPSのリクエスト

新居浜西高を卒業したのは、昭和
41年。ピートルズが来日した年であ
る。入学は、昭和38年。入学して最
も強烈で新鮮に感じたのは、昼休み
に「西高放送クラブのリクエストタ
イム」と言うナレーションが始まる
「ヒット曲紹介であつた。先ず「悲し
き雨音」がダンストップ1位でいくら聞
いても飽きず、今でも歌詞を空んじ
ている。中学生から西高生に、そし
てアカ抜けたPOPSのリクエスト

「偶 感」



Profile

久門 葉月 (くもん はつき)

昭和13年 旧新居浜高等女学校卒
 昭和14年 旧千代田女専中退 主婦
 昭和43年 文芸誌『群像』の第11回新人賞「評論の部」で河上徹太郎論『現代の神を求めて』(ペンネーム・小松万佐子)が優秀作として同年6月号に掲載される
 平成14年 『普遍的な意味での「シュルレアリスム」の可能性』を自費出版

このたび樟樹会から会誌『樟樹』に私を紹介するとのこと、お言葉を頂き、なぜ私をと戸惑っています。私に紹介頂くほどのものがあるとも思えませんので。

しかし、とやかくいう時間もありませんので、とにかくランダムに何かを書かせていただきます。

それにしても旧新居浜高女が、現在の新居浜西高等学校の一応母体であるという事実を思わずにはいられません。この事実は単に制度上のことなので、実質的にはその両者の間には伝統の継承とか共通のバックボーンが存在するというような、そこに流れるべき精神的な拠点のようなものは当然皆無であります。

しかもその両者が一つの同窓会に所属して少なくとも名簿を共有することは、しかしそれだけ世界が広がることで大層有り難いことです。私は近畿くすのき会が発足しました頃、一度同窓会に伺いましたがその後ご無沙汰で、漸く数年前から1年先輩の進藤様と毎年伺うようになりました。

しかし平凡な女学生として無事卒業して、さっさと嫁に行けばいいというような、往年の我ら女学校の生徒と、有数の進学校の学生として夢を育んで研鑽される現在の西高生とは、年頃の共通以外はやはり異質です。とはいえ昔の女学生にも夢がなかったわけではありません。

私の場合をいえば、新居浜高女で立派な先生方によって、自分の茫漠とした抽象的な夢を、自分の生活の中に象徴的に見出すことを覚えたと思います。例えば岩崎先生に初等幾何の証明の方法を習うことよって、論理的な思考というものに親しみを覚え、また碩学山本先生の植物学によって開かれた興味は、北原白秋の「バラの木にバラの花咲く何事の不思議なけれど」の短歌の詩心に親しく沿わせてくれました。

また渡辺(旧姓桐野)先生にしっかりと暗唱させられたブラウニングやコウルリッジその他の英詩一般からは、詩についての感受性を私なりに得させて頂き、それは現在の私の、後述するような関心の中に生きています。

さて私はそうして4年制新居浜高女を卒業と同時に近県の、当時進学率が高いという定評のある5年制高女の5年級に編入させて貰って、そこで勉強をして然るべき上級学校に行く筈でした。しかし私はそこでの機械的な受験勉強がしんどくて結局どこも受験せず、受験の必要がない東京の旧制女専の国文科に入りました。有り難いことにそこでも教授陣は素晴らしく、わけても「沖繩学の父」として故人ながら今も「現在の人」であられる言語学の伊波普猷先生を始めとして、諸先生からお教えを受けることができかけました。

しかし元来病気がちであった郷里の母のことがあり、私が一人子であることもあってそこを中退し、やがて結婚をしてお定まりの主婦になりました。が、三つ子の魂でしようか、主婦になり子供達の親となっても少々風変わりな芸術作品の夫々が呼び起こす深い感動の理を、文章を書くことよって模索し「解釈」するというようなことを今やっております。

幸い啓発して下さる方もあり、現在遅々としてながらその辺りを歩んでいます。その辺りとは…それは今簡単にいえませんが『ロシアフォルマリスム』などの下地のもとに、主としてフランスで形成された「新批評」(これはアメリカの「新批評」ニューヨーク派)とは完全に別の概念です)のことでです。

そして自分の方法が偶然にそれに近いとおこがましくも自覚します。しかしこの問題は簡単ではありませんので今日はこれで失礼します。

陸上競技部



負けられない闘いがそこにはある

主将 越智政之

こんにちは!!陸上競技部です。私たちは、現在3年生8人、2年生13人、1年生5人の計26人で、顧問の佐伯先生、副顧問の松田先生のもと、毎日切磋琢磨しながら練習しています。

今回このような機会を頂けたので、宣伝も含めて陸上競技を簡単に紹介したいと思います。みなさんは陸上競技に對して、どのようなイメージを持っていますか?個人競技、ただ走るだけでしょ?と、さう、といったところでしょうか。確かに、そのイメージが完全に間違っているとは言いません。しかし、陸上は、チーム競技、チームの存在が大きい競技です。そのうえ、「走る」「投げる」「跳ぶ」ということは、単純な動きだけに、とても奥の深いスポーツです。

まず、陸上の種目について簡単に説明します。大きく分けると、短距離・中距離・長距離・投擲・跳躍などがあります。短距離は、100m・200m・400m・ハドル。中距離は、800m・1500m。長距離は、3000m・3000m SSC (高さ約1m程のハドルや水濠を越える)・5000m。投擲は、槍投げ・円盤投げ・砲丸投げ・ハンマー投げ。跳躍は、幅跳び・三段跳び・高跳び・棒高跳び。そして、最も盛り上がる種目、それは……4×100m R (リレー)・4×400m Rです。リレーは、1本のバトンをも4人で繋ぎますが、4人だけでなくチーム全員が声を枯らして応援し、一丸となって挑むものです。

次に、チームメイトが欠かせないということ。このことは、陸上競技

だけでなく、野球やサッカーといった全てのスポーツに共通して言えることです。陸上は個人競技だから自分一人でも大丈夫じゃないの?と思うかもしれませんが、確かに、陸上競技は自分との戦いだと言われますが、共に汗や涙を流し、共に頑張る仲間がいるからこそ、もつと頑張ろうという気持ちになり、それがよい記録へと繋がるのです。

また、陸上競技には、チームメイトだけでなく、たくさんの人が必要です。特に大会の時には、フライングや失格を見分けたり、スタートの合図をする審判の方々や、大会を運営、進行する方々の数というのは、他のスポーツと比べるとはるかに多いです。例えば、規模の小さい記録会だとしても、そのような方々のサポートがなければ記録会は成立しません。私たちがこうして陸上を続けられているのも、陰で支えてくださる方々のおかげなのです。

では、新居浜西高校陸上競技部の練習を少しだけ紹介します。活動場所は、主に河川敷にある東雲陸上競技場です。学校が休みの日は、滝の宮公園や垣生海岸に行くこともあります。続いてメニュー。始めのウォーミングアップは全員で行いますが、その後は、短距離・中長距離・跳躍・投擲に分かれて、それぞれのメニューを行います。毎週金曜日には、全員でエンドレスリレー(私たちにとって、これぞ金曜日の代名詞!!)を行います。冬になると、河川敷はまるで異国のように寒くなるので、学校で練習する機会が増えます。グラウンドでチューブシ(自転車の子

ューブを繋いで前後に人が入って引っぱって走る)をしたり、ウエイトをしたり、武道場でエルゴ大会と補強大会をします。練習は厳しく、逃げ出したくなることも多々ありますが、お互いに励まし合い、決して弱音を吐かず、思考回路が途切れそうになるくらい一生懸命練習しています。

そんな練習を耐え抜いた先輩方は、去年の夏、千葉県で行われたインターハイに出場し、私たちに新たな道を開いてくれました。

そんな偉大な先輩に追いつけ追い越せとばかりに、練習・練習・練習の日です。どんなに辛く厳しい練習でも、励まし合ってくれる仲間がいるから乗り越えることができます。結果が出なくて落ち込んだ時、「また頑張ろう」と引っぱってくれる仲間がいるからこそ前進することができます。笑顔が絶えず、常に積極的に負けず嫌いなところが、私たちの自慢です。

陸上競技は、0.1秒の差に泣いたり、笑ったり、1cmの差で次の舞台に進めるかどうかが決まるという厳しい世界です。だから誰もが、0.1秒でも速く、1cmでも遠く高くという目標を掲げ練習に取り組んでいます。ですから、その壁が達成されたとき、0.1秒、1cmの壁に勝ったときは、とにかくうれいんです。これからは、とにかくうれうために、そしてチームのために、新西陸上部員は走り続けます。なぜなら、負けられない闘いがそこにはあるからです。



インターアクトクラブ

やさしさをあなたに
～インターアクトクラブ40年～

部長 木村圭吾



ズバリ皆さんはインターアクトクラブと聞いてどこでどんな活動をしているクラブかわかりますか？名前すら聞いたことのない人もいるかもしれませんが、よく勘違いされがちですがパソコン関係の部活ではありません。簡単に言うと、社会奉仕を軸とし日々色々なボランティア活動に取り組むクラブです。

そして私たち、インターアクトクラブをバックで支えてくださっているのは新居浜ロータリークラブの皆様です。

さて、我がインターアクトクラブは本年創立40周年を迎えました。それを記念して3月2日にはロータリークラブの方々をお招きして記念植樹を行いました。秋に花を咲かせるという『ヒマラヤ桜』。どんな花を咲かせるのか、今から楽しみです。

現在、私たちインターアクトクラブは1年生22名、2年生15名、3年生23名、計60名で活動しています。顧問の先生は国語科の石川美千子先生と英語科の寺井美保先生です。先生方は、活動の円滑化をしてくれたり思わぬ壁にぶち当たったときにいつも手を差し伸べてくれます。最近では諸先輩方の功績のおかげか入部希望者も増えています。インターアクトクラブは常に発展し続けているのです。

それでは詳しい活動内容を紹介します。まず校内活動では、西高祭において手作りクッキーを販売

しています。クッキーといつても普通のクッキーではありません。学校で材料を吟味し、大事に各家庭に持ち帰られ、手間暇をかけて丁寧に焼き上げられたクッキーです。今日のインターアクトクラブは男子部員が増え、一人で作るのにはやはり限界があり、家族の協力も得て作られています。このような場面でも人のやさしさに触れ、物事は色々な人の協力によって成り立っているということをもっと経験しています。ところでクッキーの味ですが、毎年文化祭当日になると、販売前に長蛇の列ができ予定終了時刻よりなかなか早く売れてしまいます。そして、その収益はPHD協会に寄付しています。そのPHD協会とは、岩村昇氏によって提唱されたDeeds (平和)、Health (健康)、Human Development (人づくり)の頭文字をとって名づけられた草の根の人々による国際交流・協力の活動をしている団体です。主に発展途上国の子供たちのために使われています。クッキー一つ一つの価値は私たちにとっては小さなものかもしれませんが、所変わると信じられないほど大切な価値になっていくのです。そして日本というながらも世界に貢献できるという意識を部員一同は培っています。

また毎年クリスマスには、新居浜総合福祉センターで行われる『おもちゃ図書館しゃぼんぼ』主催のクリスマス会に参加しています。合唱部や吹奏楽部と協力してクリスマス会を盛り上げるために頑張っています。ここでも手作りのクッキーをサンタの格好に変身して子供たちにプレゼントしています。クッキーを配るだけではなく、子供たちと一緒に音楽に合わせて踊ったり歌を歌ったり自然に身体が動き出し、子どもたちと一体になることができます。努力と体力がたくさん必要ですが、終わったときには幸福感と充実感で一杯になります。

活動はそれだけではありません。年に1回ではありますが新居浜文化センター前で開催されている日曜市で、新居浜ロータリークラブの皆さんたちと一緒に花の種を配っています。恥ずかしいのは最初の一人だけ

次は校外活動ですが、普段は地域周辺美化に努めています。校区の神社である一宮神社や中央公園で落ち葉の掃き掃除をしています。

す。相手は自然ですので一筋縄ではいきません。つい昨日掃いたばかりでも、次の日にはまた同じ状態になっていきます。端から見るとただの掃き掃除ですが、掃き掃除をしていると心もきれいになっていくのです。これもまたインターアクトクラブの醍醐味です。

私たちの活動は目立った大会があるわけでもないので学校の活動といえれば文化祭への参加が主な活動となりますが、活動の内容ではどこの部活動にも負けないくらい充実しているといえます。人のぬくもりを感じ、人のやさしさに感謝する。もしかするとボランティアというものは、してあげるものではなくさせていただくものなのかもしれません。



40周年という節目を迎え、部員一同活動の更なる発展のために日々一層の精進をしていきたいと思っています。まずは、自分のできる小さなことから、やさしさは人を変えてしまいかもしれません。

母校の概況

Niihama-Nishi High School

◆魅力と活力のある西高を目指して



校長 博 政岡

樟樹会の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃から母校新居浜西高校の教育諸活動に対し、格別のご支援・ご協力を賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。創立以来89年の長きにわたり、同窓生の皆様が営々と築いてこられました、良き伝統と歴史に輝く名門新居浜西高の名前に恥じぬよう、一層の充実と発展を目指し皆様のご期待に添えるべく全力を尽くす所存でございますので、よろしくご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今年度も「魅力ある進学校」の目標を掲げ、歴史と伝統を誇る西高のさらなる前進を目指します。特に今年度は、勉学と共に部活動の面でも頑張っていきたいとの思

西高づくりの基本的な考え

今年度も「魅力ある進学校」の目標を掲げ、歴史と伝統を誇る西高のさらなる前進を目指します。特に今年度は、勉学と共に部活動の面でも頑張っていきたいとの思

いから、文武両立を最大の目標にして、活力と魅力に溢れた西高づくりを進め、校訓にある「自律生活」「自主学习」「自己鍛錬」の具現化を図ります。そこで、次のような数値目標を掲げ、勉強と部活動に日々頑張っています。

◆行きたい大学への合格率90%以上
（昨年度行きたい大学への合格率85%）

◆国立大学への合格者150名以上
（昨年度国立大学合格者136名）

◆遅刻欠席 各学年1日平均10名以下

◆昨年度遅刻欠席 各学年1日平均10名以上

◆県総体出場者 200名以上
今年度の県総体には196名。水泳部を加えると200名を超える参加となり久し振りに200名の大台を超えることになりました。

主な具体的取組

☆45分7時間授業

45分7時間授業も3年目となり、授業時数の確保と機能的な教育課程の編成を実現しています。

また、学校行事の精選と長期休業日の短縮により、さらに授業時数

を確保しました。そして、5年間実施してきた2学期制を3学期制に戻し、対外的な行事（部活動での各種大会日程等）で他高とのスケジュールを整合させるとともに、学習シラバスを編集し直し、学習計画・目的の明確化を図って、授業内容の改善と充実を進めています。

☆面接週間と保護者懇談

年間4回（4月、5月、9月、12月）の面接週間と2回（7月、12月）の保護者懇談を行い、生徒の生活実態や内面の理解を深めるとともに、家庭・保護者との連携・協力を強め、学校からの情報発信を推し進めています。

☆朝の読書・マイ・ブレイン50

昨年度から始めた朝の読書をさらに充実・発展させ、生徒の読書離れを防ぐ試みを進めています。西高マイ・ブレイン50と銘打った図書50冊を5セット用意し生徒諸君の読書意欲に添えています。始業前の10分間、知的な静寂が西高を爽やかに覆います。

☆海外修学旅行

昨年度は6月に、シンガポール・マレーシアと中国上海市・西安市の2方面への海外修学旅行を実施しましたが、今年度は10月にオーストラリアと中国上海市・西安市2方面への修学旅行を計画しています。あらゆる面で国際化の進む今日、多感な高校生時代に、直接外国に赴いてその土地の人や

物と接することは、大変貴重な意義あることと考え、難しい課題も多いのですが、踏切りました。

☆習熟度別学習と個別指導

本校生の実態は、学習の習熟度、将来の進路志望、意欲、学習時間等大きな違いがみられます。そこで、1年の後半、2、3年生では、英語と数学で習熟度別の授業を展開しています。3年生ではクラス別で、1、2年生では講座別での実施です。また、ベシックとハイレベルに分けて、全学年で希望者による土曜補習を隔週で行っています。早朝や放課後の補習や質問など、個別の学習指導にも力を入れ、学力の向上に努めています。さらに、昨年度から始めたリスニング補習は、好評につき引き続き実施します。

☆授業参観と公開授業

昨年度に引き続き、年間2回の授業参観週間と授業公開を実施します。教員相互による研修・研鑽と校外の皆様のご指導により、一時間一時間の授業の改善・向上を図るとともに、教員一人一人の授業力の向上を目指します。

☆学習レインズ

例年、入学早々に学業不振に陥ったり勉学への意欲を失ったりと、スムーズに西高生活に入れない生徒が出てきます。中学から高校へのギャップの大きさに戸惑ったり、新生活への順応がうまく出ないのです。そこで、西高ライ

フへのソフトランディングを図るために、2回に分けてスプリングセミナーの形で実施しました。例年は、国立大洲青年の家で宿泊研修の形で実施でしたが、今年からは経費の都合もあつて校内での実施となりました。

また、夏休み中に1年生が記念会館を利用してのサマーセミナーも考えています。

その他、西高独自の学校設定科目や総合的な学習の時間（「仰」の時間）もさらに充実させて、魅力と活力のある西高づくりを進めています。なお、今年は野球部とサッカー部に大量の新人部員があり、5月現在、それぞれ50名を超える大所帯で活気溢れる練習を続けています。

以上、現在の西高の状況の一端をご報告いたしました。豊かな歴史と伝統に輝く西高のさらなる飛躍と発展のために、全教職員力を合わせ、全力で努力いたす所存でありますので、今後ともご支援・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

また、来年19年には創立90周年という節目の年を迎えます。掲揚台の建設、創立90周年記念誌、記念式典など、生徒たちにとって心に残る創立記念事業になればと願っています。同窓生の皆様には多大のご迷惑をお掛けいたしますが、何とぞよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

また、来年19年には創立90周年という節目の年を迎えます。掲揚台の建設、創立90周年記念誌、記念式典など、生徒たちにとって心に残る創立記念事業になればと願っています。同窓生の皆様には多大のご迷惑をお掛けいたしますが、何とぞよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

90周年事業実行委員会の発足に よせて



世良賢克(昭和26卒)

愛媛県立新居浜西高等学校は、大正6年5月3日、新居浜町立新居浜実科女学校として創立。

以来、平成19年5月3日をもって、記念すべき90周年を迎える。

この間、時代の流れは、大正、昭和、平成の三代にわたる歴史をさきみ、同窓生の数は、3万余名の陣容となる。今ここに、大きな節目を迎える。創立100周年を10年後に、その佳節を迎えるのである。

男女共学一期生

校歌に詩われている、東の樟樹群、南に石鏡の霊峰をあおぐ学舎で、日々心を燃やして、己が輝く未来を拓くべく『自主、自律』の誇りを堅持しての校風は、西高の伝統として、その90年の歴史に、深く刻み込まれている。

私たち同級生は、戦後教育改革6・3・3制の時流に扇られ昭和25年の春、それまでの女学校に、初の男女共学の1期生として、西高の校門をくぐったのである。

当時、女学校時代のままで、男子生徒を受け入れとなり、そのためであったのか、男子便所の設備がなく、飯の便所として、運動場の片隅に、ベニヤ板で囲んだだけの、きわめて簡素なものであった。戸惑ったことは勿論で、今も忘れることのできない青春の思い出の一つである。

学校環境のうつりかわり

昭和20年4月、旧制新居浜中学校に入学。その8月15日、終戦。22年4月新制中学校併設となり卒業。同年4月新制高校発足、愛媛県立新居浜第一高等学校と改称。

昭和24年9月1日、高等学校再編成実施に伴い、新居浜東高等学校と改称。第二高等学校は、新居浜工業高等学校と合併し、新居浜西高等学校として発足し、昭和25年4月1日、定時制中萩分校普通科開設。ここでやっと転校。

男女共学が実現したのである。

木造校舎よさようなら

当時の古い木造校舎は取り壊され、昭和42年3月31日、待ち望んだ鉄筋コンクリートの本館、第一期工事完成。昭和57年3月23日、第2教棟完成。

創立70周年の想い出

新居浜市政施行50周年の節目の年、新居浜西高創立70周年を迎えたこと。誠に意義深いものがあり、後に続く後輩のため、名譽と伝統をより強力なものにし、我が母校の名を高らしめるために、記念会館を建設しようと、お互い一人ひとりが汗を流し、その汗と汗の結晶が広範な運動となつて、大きく盛り上つた。

まだ見ぬ何かに出会いを期待し汗と涙の感動を受けながら、記念会館の礎となり、永い校史の一ページを飾ることができた。創立70周年を機に、新しい時代への第一歩となり、昭和63年2月13日、茲に目出度く落成を見る。同日、創立70周年記念式典が挙行されたのである。

創立100周年・新居浜市政80年・72国体

世代は、いかように変わったとは言

ものの、西高の門をくぐつた卒業生それぞれは、もつと想いに応えよう。人間だれしも幾つになつても、忘れ難いもの、懐しいもの、気になるものがあると言

が来年90周年を迎えさらに10年後には、西高100周年という記念すべき大型イベントの年である。

即ちその年は新居浜市政施行80周年、第72回国体「愛媛国民体育大会」というトリプルイベントに突入することである。

まとめ

時運を察して人情をささるべし(英将秘訣)今のようなITが隔ずみまで浸透した時代に、いちばん大事な考え方だろう。いつ何が起るか分からない。そして、なにが起つても不思議ではない。そんなときに、90年・100年事業を生きぬくためには、やはり「先のみとおしと世論の動き」をみきわめることが大切だと思う。もしも「世論が間違つていれば、それにまさきこまれる前に、おのが自身をしつかりと立て直すことが大切だ」。

最近3カ年の総合合格者数と、大学別合格者数の一部を紹介しておきます。

	16年	17年	18年
京都大	5	6	1
大阪大	3	4	5
神戸大	3	1	1
岡山大	21	11	15
広島大	8	10	4
愛媛大	31	28	38
九州大	2	2	6

	16年	17年	18年
国公立大	176	137	144
私立大	415	421	519

	16年	17年	18年
北海道大	0	3	1
東北大	0	1	0
筑波大	3	0	1
東京大	3	1	1

大学合格一覧

年間行事計画

月	日	行事
4	7	全日制入学式・一学期始業式
	10	定時制入学式
5	9	PTA総会
	16	一学期中間考査(～18日)
6	2	県総合体育大会(～4日松山市)
	22	西高祭
7	3	一学期期末考査(～7日)
	20	一学期終業式
8	25	二学期始業式
9	3	県総合体育大会(定時制 通信制)
	9	運動会
10	3	2年生二学期中間考査(～5日)
	9	2年生修学旅行(～13日)
	10	1・3年生二学期中間考査(～12日)
	26	定時制運動会
11	30	二学期期末考査(～12月6日)
12	20	二学期終業式
1	5	三学期始業式
	20	大学入試センター試験(～21日)
	29	3年家庭科学年未考査(～31日)
2	26	学年未考査(～28日)
3	1	全日制卒業式
	6	定時制卒業式
	20	三学期終業式

教職員の異動

科目等 転出者氏名	転出校等	科目等 転入者氏名	転入者所属等
国語	井上 邦智 東予	国語	五味むつみ 土居
国語	藤 恵美子 小田	国語	大屋 満徳 東予
地公	森 昭彦 充指松北	地公	渡邊 洋人 松山東
数学	高市佳代子 川之江	数学	浅田 武裕 今治東
理科	加地 勝敏 三島	理科	山之内統文 三瓶
理科	片岡 誠志 小田	理科	石黒 貴志 宇和島水
理科	久保 郁夫 退職	理科	尾崎久美子 松山西
音楽	眞木 英俊 今治南	音楽	奥出 克樹 丹原
美術	大和 義明 西条	美術	一色 良一 西条
英語	松本 温子 西条農	英語	井川 美穂 川之江
英語	長尾 美保 宇和南中等	英語	寺井 美保 北宇和
英語	齋藤美智子 退職	英語	桑野 節子 三島
専門員	定岡 孝枝 退職	専門員	近藤 千晴 今治東
技労	越智 慎二 新居浜南	主事	河内 秀之 松山盲
教頭	嶋屋 隆夫 しげのぶ	教頭兼任	佐々木利夫 教育センター
数学	吉田 英樹 松山東		
理科	村上 翼 退職		
理科	白石 大輔 西条		
家庭	宮守亜矢子 川之石		
事務	松木 若菜 退職		
国語	森本 弘子 八幡浜		
地公	森本 正樹 弓削		
英語	高橋ゆかり 今治北		
実助	下田 賢吾 川之江		



つないでつかんだ勝利!!

女子水泳部 総合優勝

平成18年度県高等学校総合体育大会成績

陸上競技(男子)

200m 西原(5位)
4×100mR
越智政・渡邊・安藤・西原(8位)

陸上競技(女子)

4×400mR
香川・安藤・早瀬・竹内(3位)
女子やり投 石川(6位)
※6位以内が四国大会出場

ハンドボール

1回戦 新居浜西 18-22 松山東

バスケットボール(男子)

1回戦 新居浜西 49-87 松山北

バスケットボール(女子)

1回戦 新居浜西 72-39 松山西
2回戦 新居浜西 37-43 南宇和

バレーボール(男子)

1回戦 新居浜西 0-2 今治北

バレーボール(女子)

1回戦 新居浜西 2-0 宇和
2回戦 新居浜西 0-2 松山南

バドミントン(男子)

団体戦
2回戦 新居浜西 3-0 今治南
準々決勝 新居浜西 3-2 上浮穴
準決勝 新居浜西 0-3 新東
※四国大会出場

バドミントン(女子)

団体戦
2回戦 新居浜西 3-0 今治北
準々決勝 新居浜西 3-0 野村
準決勝 新居浜西 0-3 新田
※四国大会出場

ダブルス 秦・高橋組 ベスト8

サッカー

1回戦 新居浜西 2-4 新居浜工

ソフトテニス(男子)

団体戦
1回戦 新居浜西 0-3 内子

ソフトテニス(女子)

団体戦
1回戦 新居浜西 3-0 伊予
2回戦 新居浜西 1-2 大洲

テニス

団体戦
1回戦 新居浜西 0-3 松山城南

卓球(女子)

団体戦
1回戦 新居浜西 2-3 南宇和

柔道

女子52kg級 高木 梓 ベスト8

剣道(男子)

団体戦
1回戦 新居浜西 3-0 松山南
2回戦 新居浜西 3-2 大洲
3回戦 新居浜西 0-4 丹原

剣道(女子)

団体戦
1回戦 新居浜西 0-5 小田

弓道(女子)

団体戦 予選敗退
個人戦 山下、横田 ベスト8

ダンス

第6位

登山(男子)

第5位

登山(女子)

第2位
※四国大会出場

新体操

個人総合 佐野 有紗(3位)
※四国大会出場

水泳(男子)

400m 井上 達貴(8位)

水泳(女子)

総合優勝 104点
自由形 50m 曾我部志帆(4位)
100m 曾我部志帆(4位)
50m 星加 真帆(6位)
100m 星加 真帆(6位)
200m 星加 真帆(2位)
400m 石川 真衣(6位)
200m 中村 志子(3位)
400m 高橋理沙子(5位)
100m 中村 志子(3位)
200m 高橋理沙子(5位)
200m 中村 志子(3位)
400m 高橋理沙子(5位)
200m 高橋理沙子(5位)
400m 高橋理沙子(5位)
平泳ぎ 200m 高津 綾香(2位)
100m 高津 綾香(1位)
バタフライ 200m 高津 愛(5位)
100m 石川 真衣(4位)
個人メドレー 200m 日野すみれ(8位)
100m 高津 愛(3位)
400m 高津 愛(2位)
リレー 400mメドレーリレー(1位)
※8位以内が四国大会出場



新居浜の動き

別子山地域バス運行開始

4月29日、別子山地域と新居浜市街地を結ぶ公共交通機関として、別子山地域バスが運行開始しました。

このバスは、現在公共交通機関がない別子山地域と新居浜市街地との行き来ができるものであり、市街地では、せとうちバスの停留所で乗降でき、別子山地域内では後津山荘やゆらぎの森などの希望場所（住宅）まで送迎する「デマンド方式」で運行しています。これを機会に、赤石山系登山等、別子山観光に訪れてみてはいかがでしょうか。

なお、バスの利用は原則として予約制となります。予約なしでも利用することはできませんが、満席等で利用できない場合もあります。

乗車予約や運行状況など、別子山

地域バスに関する情報は別子山支所（電話0897・64・2011）までお問合せください。



別子山地区を走る地域バス

まちづくり協働オフィス開設

新居浜市では、福祉・教育・文化・防犯・防災・国際交流、また自治会等による地域コミュニティ活動など、さまざまな分野で公益的な市民活動が活発に行われています。

市民活動団体が、会合や作業に利用したり、関係者が交流・情報交換する場の提供を通じてネットワークの形成や事業連携を図るとともに、市民と行政の協働のまちづくりを推進することを目的として、「新居浜市まちづくり協働オフィス」が、平成18年7月、市民文化センター内に開設されました。

協働オフィスの企画運営管理は、公募・公開審査の結果、「NPO法

人にはま市企画ノボック」が担うことになりました。

まちづくりおしやべりカフェやテーマ別勉強会の開催などを通じて、新たな公共の担い手として、市民セクターの意識啓発と能力開発、また市民の視点で行政事業の見直しに取り組んでいく予定です。

変わりゆく風景

進む新居浜駅前土地区画整理事業

昨年に引き続き、新しい本市の顔となる新居浜市駅前土地区画整理事業の進展状況について報告します。

写真1は、昨年7月現在の航空写真です。徐々に区画整理が整ってきていることがわかります。

現在は、駅のロータリーを県道などの主要幹線が通過しています。正光寺

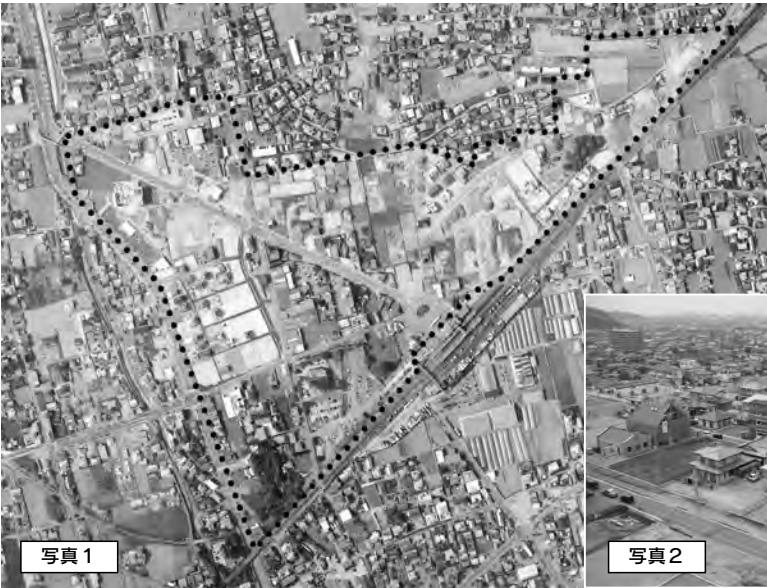


写真1



写真2

山の南側に迂回して整備されつつあることも、確認できると思います。写真2は、昨年掲載した地域の現在の様子。なお、当事業の最終年度は平成22年度の予定です。



本部だより



6月22日開催の西高祭では、PTAの協力を得て、恒例の模擬店を出店しました。今回で、5回目となるバザーですが、『合格たこやき』のご利益はあったでしょうか？うれしいご報告を待っています。昨年からは、校章入り『西高どら焼き』も加わり、メニューも豊富になっています。あいにくの雨天にも関わらず、盛況のうちに事業を終えることができました。



なお、収益はすべて生徒会へ寄付している事を付け加えさせていただきます。



平成18年度事業計画(案)

月日	会合名	事業内容
4月 1日	樟樹編集委員会	「樟樹」17号印刷所承認・概要相談
4月 18日	会計監査	平成17年度会計帳簿類
4月 24日	樟樹編集委員会	「樟樹」17号原稿依頼先および責任者決定
5月 13日	第一回常任理事会	平成17年度事業報告 平成17年度会計決算報告 平成17年度会計監査報告 平成18年度役員承認 平成18年度事業計画案審議 平成18年度予算案審議 その他
5月 15日	第一回理事会	第一回常任理事会と同議事内容
5月 22日	樟樹編集委員会	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
6月 12日	樟樹編集委員会	前回分校正・第2次原稿持寄り
6月 19日	樟樹編集委員会	校正
6月 22日	西高祭支援	模擬店(たこ焼き・焼きそば・フランクフルト・西高どら焼き・ラムネ販売)
6月 26日	第二回常任理事会	平成18年度総会の準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売 招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月 26日	樟樹編集委員会	最終校正
6月 28日	第二回理事会	第二回常任理事会と同議事内容
7月 1日	近畿くすのき会	第11回総会(大阪全日空ホテルにて開催) 会計報告、役員改選、その他
7月 15日	松山樟樹会	拡大常任幹事会(鳥島にて開催)総会開催日等を決定
8月 5日	総会・懇親会	「樟樹」17号発行 平成17年度事業報告 平成17年度会計決算報告 平成17年度会計監査報告 平成18年度役員承認 平成18年度事業計画案審議 平成18年度予算案審議 その他
1月 下旬	第三回常任理事会	平成18年度の反省及び平成19年度の予定 役員の構成について その他
2月 下旬	第三回理事会	第三回常任理事会と同議事内容
2月 下旬	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月 下旬	同窓会賞授与	卒業式にて授与(全日制2名 定時制1名)

平成17年度 樟樹会一般会計収支決算書

収入の部

(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

項目	17年度予算額	17年度決算額	備考
前年度繰越金	3,909,020	3,909,020	
入会金(全日制)	3,129,000	2,996,900	963人(延べ人数)
入会金(定時制)	186,000	176,700	19人
雑収入	20,000	117	貯金利息・預金利息
運営会費	1,000,000	1,193,000	326人
収入合計	8,244,020	8,275,737	

支出の部

項目	17年度予算額	17年度決算額	備考
会合費	900,000	824,980	理事会 総会補助(290人参加)
慶弔費	50,000	37,560	香典・餞別料
人件費	1,260,000	1,260,000	賃金
事務費	120,000	68,689	コピー用紙他
事務機器費	470,000	458,213	パソコン、会員個人情報データ
同窓会賞	15,000	15,000	全日制 2名 定時制 1名
入会祝	700,000	613,800	全日制 320名 定時制 19名
支部への補助金	150,000	50,000	近畿支部総会お祝い金
旅費	200,000	75,000	近畿支部総会出席
生徒への補助金	500,000	315,000	四国・全国大会補助
その他の事業費	150,000	162,377	高校野球広告料 西高祭バザーによる生徒会支援
通信費	250,000	207,767	電話代 切手・葉書代
雑費・予備費	170,000	241,685	運営会費徴収に関する費用他
次年度繰越金	3,309,020	3,945,666	
支出合計	8,244,020	8,275,737	

平成18年4月18日 会計監査委員 鈴木健二◎
真鍋 繁◎

24名の同窓生が母校の教壇に立つ

氏名	(卒業年)	教科等
五味むつみ	S 61	国語
星加 啓子	S 60	英語
星加 修史	S 58	保体
浅田 武裕	S 57	数学
渡邊 夏実	S 55	国語
渡邊 洋人	S 54	地公
近藤 千晴	S 54	高員
鴉 裕子	S 49	国語
佐々木利夫	S 48	教頭
石川美千子	S 47	国語
塩崎 勇人	S 46	地公
中野 静江	S 45	実助
井川 美穂	S 62	英語
松長 健治	S 62	数学
井川 紀英	S 63	英語
山中 達也	H 2	国語
藤田 和生	H 6	理科
小池 佳子	H 9	英語
森本 正樹	H 10	地公
尾崎久美子	H 11	理科
寺井 美保	H 11	英語
森本 弘子	H 11	国語
下田 賢吾	H 12	実助
小西 歩美	H 13	家庭

会員からの便り

還暦を迎えた同級生

太田嘉一（昭和40年卒）

今年、還暦を迎えると西高を卒業して41年になるようです。私は西高を卒業して、千葉、東京、神戸で数年間、大学・就職と生活をしましたが、籍はずっと新居浜だったし、子供の頃から今日まで同じ様な生活をしているような気がします。また娘二人共、宮西小学校、北中、西高と親と同じ自称エリートコースを進んだので、私自身、学校にもちよこちよこ行っていたし、生活に大きな変化もなく、年月も感じないまま暮らしてきましたが、今振り返ると、西高時代が一番楽しい時期だったように思います。鈍くさいが美人のH、明るくて体格の良いM、不治の病に冒されたK、変わり者のO、若くして親の跡を継いだT。亡くなった同級生のことを想うと寂しさと年月を感じます。ご冥福を祈りたい。一方お高くとまったM・S、しっかり者のM・T、変にしっかりしたT・K、寂しそうな声のM・O、いつも賑やかなK・H、大人びたS・S、純情なS・G、のことなどが楽しく思い出されます。懐かしい気持ちで今年の正月に同級会をしました。A組の小野宗三君、B組の中林穂子さん、仙波教夫君、C組の山口昇君、天川谷忠男君、松

本彰君、D組の新名啓子さん、E組の小野文女さん、浅野洋子さん、村上妙子さん、F組の加藤公司君、G組の公文真美子さん、達のお世話で行いました。わいわいがやがやと、捗らないのが楽しい世話人会で準備をし、関浩二先生、津村義文先生に出席頂いて、1月2日に開催しました。みんなに楽しんで頂けたと思います。しっかりした世話人会が、出来たので、次回は、近いうちに開催できると思います。みんな体調に留意して、思い出話にのみ出てくるようにならないよう元気で暮らして頂きたいと思っています。

還暦記念同期会

小野（塩崎）文女（昭和40年卒）

平成18年1月2日(月)「ユアーズ」にて、私たち昭和40年卒業生の同期会を催しました。出席者、50名と少人数ではありますが、関浩二、津村

義文両先生のご出席を賜り、なごやかな内にとても愉快な会となり、時の経つのを忘れる盛り上がりでした。

戦後生れの私たちも還暦を迎える歳となり、夫々がこれまでの語り尽せぬ人生やこれからの夢を、思い思いに談笑しました。中には、40年振りに再会できた人、現在の暮しの様子を写真で披露してくれる人も居て、世話人として、では、予想以上の成功を得たと、一同大変喜んでいました。

返信の通信欄には消息や想いを書いてもらい、欠席者の多くは旅行・親の介護・家庭を持った子供たちの帰省等が理由で、いたしかたなく出席を断念した様子が読みとれました。次回開催の参考とさせていただきます。次回開催の参考とさせていただきます。

クラス・部活ごとの歌等の後、全員で肩を組み、西高校歌を合唱し、健康で次回必ず再会することを約束して閉会しました。



昭和40年卒業 新居浜西高校同期会 於：ユアーズ 2006.1.2

同期会便り

三四会活動報告

今村俣啓（昭和35年卒）



我々は、石川弾久会長を中心として新居浜・近畿・関東三四会を組織し、それぞれの会で定期・不定期な交流を活発に続けています。

定期的な会合はもとより、各地区の主催の会合には全国網（ノーリングリス）はほとんど膨らんでいます。連絡を取りあい多数の人が参加して賑やかに懇親や親睦を図っています。

今回は、3月に新居浜本部主催で行われた、「九州旅行」の活動報告をいたします。

参加人員20名で車4台に分乗し各地から合流しました。

第1日目

①松山観光集合→大分港（松山で秦君合流）

○石川会長早い桜見物で遠回り（I・C

の降り間違い）

②大分駅（大分在住の永田、児玉さん合流）→吉井ひなまつり→西鉄小郡駅東京より青野、斉藤、矢島さん合流→嬉野温泉宿泊（宮崎より渡部さん合流）

○年代を感じさせる吉井の「ひな祭り」は、素晴らしかった。

○西鉄小郡駅なんてわからない。カーナビさんの威力です。

○夜は、日頃馴染んでいる同期生二氣に宴も進み会話、カラオケ、ダンスなど和やかに、賑やかに大いに盛り上がりました。

第2日目

宿泊所→伊万里焼→吉野ヶ里遺跡→菊池観光ホテル宿泊

○朝から大変な雨となった。伊万里焼の本物に接して勉強になりました。

次に急いだので、もつと時間が欲しかったね、と後から女性達の声がありました。

○吉野ヶ里では、環濠集落での生活を偲びつつ太古の昔に思いを巡らししました。

○熊本在住の恵良鴻上和子さんは都合で参加できませんでしたが、馬刺しその他貴重な差し入れをいただきました。この誌上を借りてお礼を申し上げます。懇親の宴は、更に盛り上がりました。

第3日目

ホテル→田原坂→柳川→大分駅→松山観光港

○朝、菊池神社参り&歴史探訪を石川会長が提案するも参加者1名（飲み疲

れている？）

○「田原坂」を歩いて激戦の蹟を体験しました。

○「柳川めぐり」では、軽妙な会話の船頭さんと歌も歌ったりと至福の間を過ごしました。

全国各地から参集しての楽しい三四会&旅行でした。

今後、三四会活動のますますの盛衰を祈念し、またの再会を約束して散会しました。

校歌とあだ名と 思い出と

菅 伸明（昭和44年卒）

恒例の同期会が本年1月2日にユアーズで開催された。我々の期では三年半ごとに、盆と正月の各一回交互に実施している。

今回は、恩師である飯尾忠博・鈴木格両先生の御参加をいただき、40名の者が集まった。お二人ともすでに退職されているが、ボランティア活動や青少年健全育成に尽力するなど、第二の人生を有意義に過ごしておられる様子である。高校時代によく聞いた独特の口調で、ユーモアを交えながら挨拶され、会場は懐かしくも温かい雰囲気にも包まれた。

高々と杯を揚げた後は、席を立ててあちこちで献杯し歓談する姿が見られ、時は一気に37年前に溯った。お楽しみ企画として、「ラッキーカード」の抽選

も行われ、新年早々運の良い朋友は、高額？の商品券を手にしたようだ。クジ運の悪い私は、残念ながら選に漏れたが、こうして元気で朋友たちと再会したことが今年の幸せと納得した次第である。

我々の期には同窓会長の畑田君もあり、同君の鼓舞により、我々の期で西高を盛り上げていこうと誓い合ったのである。残念ながら時間の制約もあり、最後はいつもの「高校三年生」の合唱で、楽しかった今回の同期会は幕を閉じた。

酌み交はす麦酒五十路の意気高く（くみかはすビールいそちのいきたく）



S47 関東組は毎年11月第4金曜日

大集合!!ですよ

高橋優子 (昭和47年卒)



かった人やそんな人いたっけの人とも、懐かしい時間を共有し、新たな発見や意気投合をして旧くて新しい交流が始まっています。関東地区に在にに限らず、また西高47年卒業生に限らず、小学校・中学校が一緒だった方々にもたくさん旧友と再会できる場として開放し、新居浜や関西方面から何人もの方々が嬉々として馳せ参じています。

不定期的に回を重ね、今や心待ちにしている方も増えました。昨年から定例とし、毎年11月第4金曜日に開催することになりました。今年11月24日(金)です。是非、この日に合わせて東京に来る仕事や用事を作り、ご参加ください。うまく出張を組むのもよし、関東の同窓生宅に泊めてもらうのもよし、交通費と宿泊費をかけてもお釣りが来ることは保障いたします。かつて、懐かしいけどよく知らない人もいるからなと、おつかなぎびつくり足の指先で湯加減を確かめに来られた方も、一気にタイムスリップしてドブプリと首まで浸かり、湯上りの余韻もほのぼのと長く続いたと聞き及んでおります。

新居浜西高卒業生のみなさん、こんにちは。私たちがS47年卒業の「関東組同期会」は、1998年正月に新居浜のリーガロイヤルホテルで行われた卒業25周年の同期会で久しぶりに顔を合わせたのを機に、「東京でもやろうよ」ということになり、3Fだった近田さんが店長をしている新宿のお店に集まるようになりました。

最初は10人前後だったのですが、クチコミでどんどん広がっていき、昨年をご覧のような参加人数になりました。新居浜までは行けなくてもこちらには参加できる、という方も多く、毎年、32年振り、33年振りという懐かしい顔に出会えます。旧交を温めるだけでなく、顔しか知らない

私たちの溜まり場はいくつもあり、近田さんの異動と参加人数に伴って毎回変わります。同期会のご案内は、下記のホームページ「西高S47同期会」に掲載いたします。西高関係者ならどなたでも参加OK。S47年卒業生を誰かひとり知っていれば十分です。きつと時空を超えた時間を共有できることでしょ。

ホームページ：

<http://yohs.yohsys.net/nisi3.shtml>

S47関東組発起人：

波多野 一郎 hatano-i@lilycolor.co.jp

宮田 みち子 m-miyata@bcon.co.jp

高橋 優子(旧姓:三好) ogawamap@tubasa-u.com

新宿に気安い店を持っておくのは、後々のためにもきつと悪くないと思いますよ。

四十の会

井原康子 (昭和59年卒)

昨年8月14日(日)に恩師4名(岡田孝哉先生、岡野昭先生、佐光正志先生、秋山泰子先生)の出席を賜り同期生約百名がリーガロイヤルホテル新居浜に集いました。

西高を卒業以来、初めての同期会でした。皆、40ともなると、それなりに、落ち着き、出られるのではないかしら?というちよんぷりりのいい歳でした。

「40か。ええとしになつてしもたねえ。」とお互いに言い合いながらも、会話の弾みは昔のまんま。会の進行の都合で、「男の方はこちら、女の方は。」と言うところも「男子はこっち、女子はこっちね。」などと、何のためらいも違和感もなく、言葉に出たのは、やはり、みんながみんなあの時のまんまに戻っていたからなのでしょうね。

タイムスリップしたような気分でした。さあ、次の同期会はいつになるのでしょうか?楽しみます。

新居浜祭のように、一年のこの日を心待ちにできれば、また日々の生活にも力がわいてきそうです。

次の幹事はどなたかしら?



編集後記

17号の発刊にいたしました。皆様の温かいご支援により今年も発刊できましたこと、深く感謝申し上げます。

今年是全国的に5月に雨が多く、日照不足で野菜が高騰しています。また、6月12日の朝には、新居浜でも震度4のかなり揺れる地震がありました。みなさんもビックリしたのではないのでしょうか。私も揺れる大きさといひ、時間といひ阪神大震災の時と似ていましたので、飛び起きてテレビのスイッチを入れました。何処にもたいした被害がなくヤレヤレです。

さて、ここまで読み進まれましたらもうお判りですが、来年度は創立90周年となります。小誌も来年の18号は90周年記念特大号になるのかななどと考えておりますが、読者のみなさんから90周年によせてのご投稿をいただければと思っております。

編集委員長 近藤 博司(昭44)

- 委員 藤本スマ子(昭18) 伏見 紀子(昭44)
- 井上 和子(昭20) 塩崎 勇人(昭46)
- 世良 賢克(昭26) 渡邊 洋人(昭54)
- 武田 信之(昭28) 安藤 寛和(昭58)
- 安藤 正純(昭30) 五味むつみ(昭61)
- 藤田 石根(昭31) 越智 孝司(平2)
- 桑原 征一(昭38) 高尾 智幸(平4)
- 長野 文彦(昭41) 西村 剛(平7)
- 近藤 司(昭42) 寺井 美保(平11)
- 畑田 雅敏(昭44) 日野 愛子(平12)

発行所

樟樹会

〒792-0024 新居浜市宮西町4-146

TEL 0897-3214331

FAX 0897-3214331

発行者 畑田 雅敏

編集者 近藤 博司

印刷所 株式会社サラト

発行日 平成18年7月15日

